

なつほのか通信 Vol.3



技術者研修会を開催しました

2021.7月発行

高標高地(竹田市)の実証ほの生育状況を確認することを目的として、農業団体等を対象とした研修会を7月14日に開催しました。

始めに、長野幸生氏のほ場(大字古園)で立毛を観察し、豊肥振興局の生育調査結果を参考に、栽植密度による生育の違いを確認しました。

長野氏からは「高温に強い新しい品種として期待している」との言葉がありました。



その後は久住町に移動し、久住高原高校の実証ほについても生育を確認しました。県内で最も標高が高いほ場で(580mm)、幼穂の長さを確認したところ、約2mmであったことから追肥の適期と考えられました。



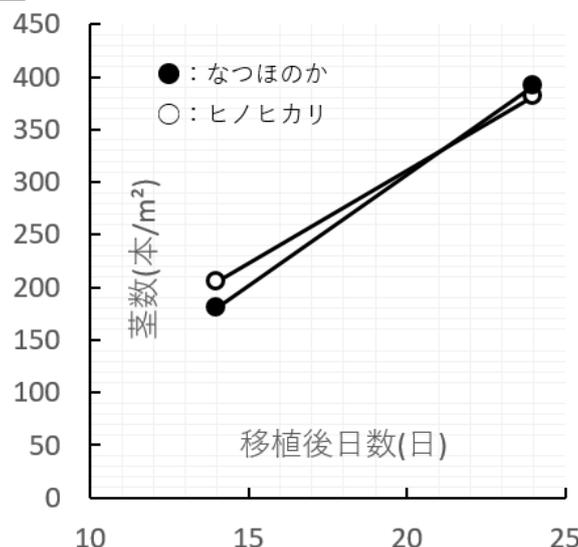
両ほ場とも生育は順調で、参加者からは「品種の草姿について学べてよかった」「担当の実証ほと比較したい」との感想も聞かれました。

26日には平坦地(宇佐市)で同様の研修会を予定しており、また各地域でも生産者を対象とした研修会も計画されています。

水田農業グループの生育調査結果

※7月15日時点(暫定値)

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)
なつほのか	55	391	39.5
ヒノヒカリ	49	382	41.8
つや姫	54	374	41.8



6月21日移植。栽植密度15.2株/m²。基肥窒素施用量 4g/m²。

作成者：大分県農林水産部 水田畑地化・集落営農課 (☎097-506-3596)
農林水産研究指導センター 水田農業グループ (☎0978-37-1160)